



予防接種後の注意!!

必ずお読みください

- 1 予防接種後1時間くらいは、発疹（ブツブツができる）、気分不快、息苦しさなどの症状が出ないか、ご自身で経過観察をおこなうようにしてください。きわめてまれではありますが、重篤な副反応（アナフィラキシー）などが起こることがあるためです。
- 2 接種当日はいつも通りの生活で構いませんが、過度な飲酒・激しい運動等は避けることが望ましいとされます。入浴は差し支えありません。
- 3 接種後、接種部位の発赤などの局所反応や発熱、頭痛、筋肉痛等の全身反応が生じることがあります。副反応と思われる症状が出現し、日常生活に支障がある場合は、当外来にご連絡ください。

国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター 国際感染症センター
トラベルクリニック

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
Phone: 03-3202-1012 (直通) Fax: 03-3207-1038 (代表)
travel@jihs.go.jp
<https://travelclinic.jihs.go.jp/index.html>

トラベラーズワクチン

Traveler's Vaccines

予防接種を受けるにあたって

当外来では、皆様の渡航先、渡航期間、
現地での生活環境に応じて
必要な予防接種や予防内服をお勧めしています。





ワクチン接種による予防

● **ワクチンの概要**

ワクチンは感染に対する抵抗力(免疫)を事前に獲得して、感染自体を防いだり、感染時の重症化を防ぐ方法です。ワクチンには、大きく分けて「弱毒生ワクチン」と「弱毒生ワクチン以外」があります。

弱毒生ワクチン		弱毒生ワクチン以外
生きた細菌やウイルスの毒性を弱めたもの		細菌やウイルスなどから、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して毒性を不活性化したもの
▶ 経鼻インフルエンザ、麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘、BCG、黄熱、ロタウイルス、エムボックス、など		▶ ジフテリア・百日咳・破傷風(DPT)、日本脳炎、肺炎球菌、Hib、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、インフルエンザ、COVID-19、RSV、HPV、髄膜炎菌 など
まれに、病原体が増えるタイミングで接種から時間をおいて発熱・発疹・倦怠感等の症状がでることがある	副反応	多くの全身反応は接種日〜2日以内に生じる。接種部位に痛みや発赤が伴うことは比較的多くみられ、まれに1週間以上続く
弱毒生ワクチンとの間隔は1カ月以上〜(ロタウイルス、経鼻インフルエンザワクチンは除く)	接種間隔	間隔制限なし
接種不可であることがある	免疫不全	接種可能(効果は低くなる可能性)
接種不可(接種から1〜2カ月は妊娠を避ける)、ワクチンによっては授乳への影響あり	妊婦・授乳婦	リスクに応じて接種は可能

● **国内未承認ワクチンとその接種時の注意**

国内未承認ワクチン(輸入ワクチン)とは、すでに海外では有効性や安全性が証明され、承認・市販されているものの、日本では未承認となっているワクチンです。これらのワクチンを必要とする方のため、医師による個人輸入した国内未承認ワクチンを提供することが可能です。ワクチンに関連する重篤な副反応が起こった場合の公的な救済制度はありません。

ん。ただし、輸入代行企業による自社補償制度が適応となることがあります。

#輸入ワクチン #救済制度 Search

また、当外来で採用している国内未承認ワクチンは、国外で多数の接種実績があり、重篤な副反応が起こることは極めてまれですが、上記の救済制度について理解をして接種をご検討ください。

健康状態の確認

● **健康診断書・留学用の必要書類・英文ワクチン接種証明書の作成**

対応可能な内容であれば健康診断書の作成を承っております。海外赴任期間が6カ月以上になる場合は、法律で渡航前後に健康診断の実施が求められますので産業医等からの指示を仰いでご対応ください。治療中の病気がある場合はかかりつけ医にて英文診断書を作成することをお勧めします。現地での緊急時を含む診療や薬剤の持ち込みに役立ちます。

海外旅行保険加入

海外の医療機関では、健康保険を使用できず支払う医療費が高額になったり、医療設備や検査に限界があり、他国の病院へ緊急搬送が必要になったりすることもあります。公的な制度として海外療養費制度もありますが、十分な補償がされない可能性もあります。適用条件、補償内容、補償限度額等を見て、現地の医療事情に合った旅行保険の準備をしましょう。クレジットカードに付帯する事もありますが、補償は十分でないことも多く、免責事項等をよく確認しておくことをお勧めします。

渡航先の事前情報の収集

渡航先により医療事情や流行している感染症は異なります。診察時だけでなく、事前にご自身でも情報収集をすることをお勧めします。下記の情報収集先もご参照ください。

FORTH (厚生労働省検疫所) ● <https://www.forth.go.jp/index.html>

黄熱を始めとして、地域毎に注視すべき病気についての情報が参照できます。「海外渡航者向けの予防接種実施機関」でワクチン等の相談が可能な施設が検索できます。

外務省 海外安全情報配信『たびレジ』 ● <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

登録により感染症以外の安全情報が入手でき、旅行中でも最新情報が入手可能です。また、現地での事件・事故に遭った際に外務省を通じた素早い支援に繋がります。

海外渡航者のためのワクチンガイドライン/ガイダンス 2019 参照アプリ (日本渡航医学会)

「どこ?とこ?ワクチン」 ● <https://doko-toko-vaccine.jihs.go.jp>

日本渡航医学会が発行する「海外渡航者のためのワクチンガイドライン/ガイダンス 2019 改訂版」をシナリオ型チャットボットで、必要なワクチンや予防方法について必要な情報を参照することができます。

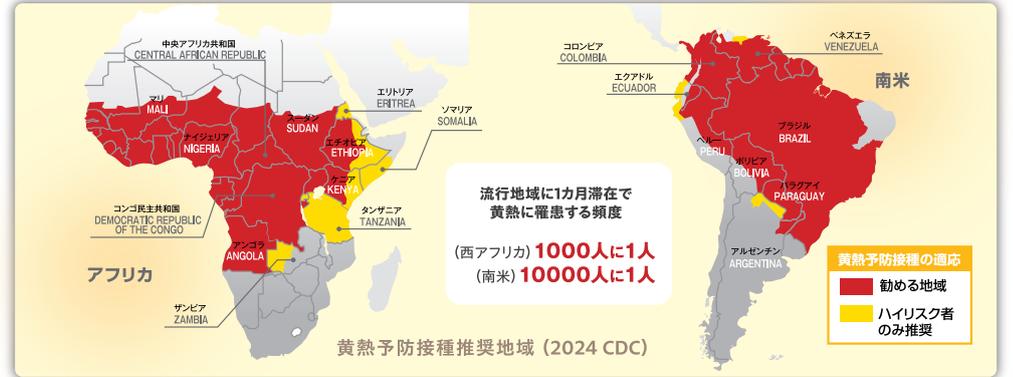


生ワクチン

黄熱



推奨度



✓ **チェックリスト【事前相談での説明項目】**

- リスク地域と国際保健規則(IHR)について
- イエローカード(接種証明書)は接種10日後から有効になり、紛失しなければ生涯有効となる
- 紛失時には接種した機関での再発行が可能だが、情報が残っていない場合は不可(目安として10年)
- **副反応について**
 - 約10%で接種3〜7日後に発熱、関節痛などが生じる
 - 稀であるが重篤な副反応として内臓障害、神経障害(約30万接種に1イベント)が生じ、内臓障害では約半数に死亡例が報告されている
 - 免疫不全者や高齢者では副反応が生じやすい。(内臓障害は、60-69歳までは約10万接種、70歳以上では約5万接種に1イベントで生じる)
 - (女性のみ)妊娠時は接種したウイルスが胎児へ感染するリスクがある
- **接種禁忌について**
 - 絶対禁忌(接種が不可能な方): ワクチンへの過敏症、生後9カ月未満、症状があるHIV感染症あるいはCD4数200未満、免疫機能不全を伴う胸腺疾患、原発性免疫不全、悪性新生物、移植患者、免疫抑制剤使用者、妊婦
 - 相対禁忌(渡航形態に応じて接種を回避する方): 60歳以上、無症候性HIV感染症かつCD4数200-499、授乳婦
- **次回受診時の注意**
 - 黄熱ワクチン接種前28日以内に他の弱毒生ワクチンを接種した場合は、原則、接種できない

■ **黄熱とは?**

黄熱は、主にヤブカによって媒介されるウイルス性の感染症です。発熱、頭痛に加えて、病状が進行すると肝臓の働きが弱くなり全身の皮膚が黄色くなります(黄疸)。有効な治療薬はなく、致死率は約30%です。

■ **黄熱予防接種について**

他の地域に黄熱を広げないために、国際保健規則(IHR 2005)により、特定の地域への渡航者にこのワクチンを接種することが義務づけられています。接種証明として、イエローカードが発行され、出入国時に提示を求められることがあります(必要な国はFORTHのホームページで確認可能)。国内では検疫所や一部の医療機関でのみ予防接種が受けられます。黄熱ワクチンは一般に安全ですが、極めて稀に脳炎や臓器不全などの重篤な副反応が起こることも知られています。予防接種を受けるべきでないと判断した医師は、イエローカードの代わりに英文の免除証明書等を発行することがあります。

■ **免除証明書の注意点**

- 1つの渡航過程につき1枚の発行になります
- イエローカードと同等の有効性が保証されているものではありません

● **感染リスク** 黄熱ウイルスを持つ人や猿を吸血した蚊の刺咬

● **対象者** 黄熱リスク地域への渡航者、IHRに基づく接種が必要な旅程の渡航者等

● **有効期間** 接種10日後から生涯、ワクチン接種証明書(イエローカード)が有効

● **接種方法** 生ワクチン1回



A型肝炎 [エイムゲン]

未承認 A型肝炎 [Havrix]



✓チェックリスト

- ✓ 多くの途上国で流行(特に南アジア・アフリカ)
- ✓ 食べ物から感染するので予防困難
- ✓ 予防接種で確実な長期間の予防が可能
- ✓ 1940年以前の出生、途上国出生の人は免疫を持っていることが多い

●**感染リスク** 火の通っていない生野菜、水・氷、海産物の摂取など

●**対象者** 流行地域への長期滞在者
衛生状態の悪い国や地域への渡航者

●**接種方法** A型肝炎 [エイムゲン]



リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在でA型肝炎になる確率 **1万人に1人**



●**有効期間** 10~20年以上

未承認A型肝炎 [Havrix] 原則1歳以上



腸チフス [タイフィム・ブイアイ]



✓チェックリスト

- ✓ 食べ物から感染するので予防困難
- ✓ 特に南アジアで最多
- ✓ 60~70%の腸チフスが予防可能、パラチフスは予防不可
- ✓ 2歳未満は接種不可

●**感染リスク** 火の通っていない生野菜、水・氷、海産物の摂取など

●**対象者** 流行地域への長期滞在者
衛生状態の悪い国や地域への渡航者

リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在で腸チフスになる頻度

1万人に1人 (南アジア)
10万人に1人 (南アジア以外)



●**有効期間** 2~3年程度

●**接種方法** 不活化ワクチン1回

未承認 コレラ [Dukoral]

リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在でコレラになる確率 **100万人に1人未満**



✓チェックリスト

- ✓ 多くの途上国で散発的な流行(特に南アジア・アフリカ)
- ✓ 流行国、不衛生な環境への居住、緊急支援派遣者等
- ✓ 毒素原性大腸菌の下痢症の予防に一定の効果がある

●**接種方法** (内服)



※接種前後1時間は飲食出来ません。

●6週を超えたらやり直し

●**感染リスク** 火の通っていない生野菜、水・氷、海産物の摂取など

●**対象者** 流行地域への長期滞在者、衛生状態の悪い国や地域への渡航者

●**有効期間** 6か月(6歳未満)、2年(6歳以上)。リスクが継続する場合は、この期間内に追加接種をすることで効果延長

狂犬病 [ラビピュール]

未承認 狂犬病 [Verorab]



✓チェックリスト

- ✓ 多くの国が感染リスク国
- ✓ 発症後の致死率はほぼ100%
- ✓ 動物と接触してしまう機会が多い
- ✓ 事前に予防接種しても、咬傷後は受診が必須
- ✓ 事前の予防接種をしていると狂犬病用の免疫グロブリン治療が不要になる

●**感染リスク** 感染動物の唾液が体内に侵入(咬まれる、引っ掻かれる)、動物を扱う方・狂犬病の研究者など

●**対象者** 流行地域への長期滞在者
衛生状態の悪い国や地域への渡航者

リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在で動物と接触する確率

700人に1人



●**有効期間** 一般的には3回を接種していれば追加接種は不要。哺乳動物や病原体に触る高リスクの職業に限り2~5年毎の再接種を検討

狂犬病流行国で動物に接触したら？ 狂犬病曝露後の対応について

対応しなくていい場合

- 着衣の部分を噛まれて出血していない
- キズの無い皮膚を舐められる

対応が必要な場合

- 素肌を噛まれる、引っ掻かれる
- 粘膜や傷のある皮膚を舐められる
- コウモリ窟に入る(エアロゾル感染)

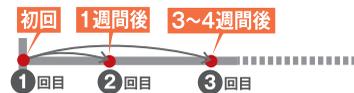


- すぐに水と石鹸で少なくとも10~15分洗う
- なるべく早めに病院に行って曝露後対応(タイムリミットはない)

●接種方法

曝露前接種

狂犬病 [ラビピュール] [Verorab]



曝露後接種

適切な曝露前接種(事前の接種が3回以上等)を受けている場合



適切な曝露前接種を受けていない場合



●免疫グロブリンは入手できない地域(含、日本)がある。

世界保健機関や米国などでは2回の接種でも十分な免疫が獲得できるとの見解を示しています。ただし、米国では3年以上リスクが続くならば、3年以内に3回目の接種をすることが勧められています。添付文書でも3回接種になっていることを含めて当院では、原則3回の接種を推奨しますが、希望や状況に応じて2回接種も検討可能です。

Traveler's Vaccines トラベラーズワクチン



髄膜炎菌ACWY結合型 [メンクアッドフィ]



✓チェックリスト

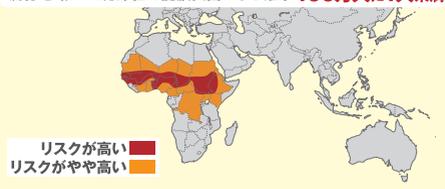
- 人の鼻腔に常在することがあり、飛沫を介して感染
- 髄膜炎ベルトでは乾季(11~5月)に流行
- ACWYの4種類の菌を予防する
- 欧米で定期接種として実施する国も多い

●**感染リスク** 人が集まる場所(寮、メッカ巡礼など)、免疫低下(例:脾臓摘出)など

●**対象者** 流行地域への長期滞在者、感染リスクが高い者

リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在で髄膜炎菌になる確率 **100万人に1人未満**



リスクが高い
リスクがやや高い

●**有効期間** 3~5年程度

●**接種方法** 1回

未承認 髄膜炎菌B群結合型 [Bexsero]



✓チェックリスト

- 人の鼻腔に常在することがあり、飛沫を介して感染
- 髄膜炎菌B群(欧州圏で多い種類)を予防する
- 欧州圏では定期接種として実施する国もある

●**感染リスク** 人が集まる場所(寮など)、免疫低下(例:脾臓摘出)など

●**対象者** 感染リスクが高い者

●**有効期間** データ不十分

●接種方法

- **生後6ヵ月未満**: 2か月以上あけて2回 or 1か月以上あけて3回、2歳以降に最終接種から6ヵ月以上あけて追加
- **生後6-11か月**: 2か月以上あけて2回、2歳以降に最終接種から6ヵ月以上あけて追加
- **1歳-2歳未満**: 2か月以上あけて2回、最終接種から12-23か月空けて追加可能
- **2歳以上**: 1か月以上あけて2回

ダニ媒介脳炎 [タイコバック] [タイコバック小児用]



✓チェックリスト

- 東欧から中央アジアで流行、北海道でも報告
- マダニが媒介するウイルス感染症
- 春から夏にかけて流行

●**感染リスク** 森林や草原などでの野外活動など

●**対象者** 1歳以上、流行地域への長期滞在者

●**有効期間** 1回目の追加接種は3年後、以降も感染リスクが続く場合は5年毎(60歳以上は3年毎)追加可能

リスクの高い地域

流行地域に1か月滞在でダニ脳炎になる確率 **3万人に1人**(オーストリア郊外)



リスクが高い

●接種方法



Routine Vaccines ルーティンワクチン



MR 生ワクチン 麻疹・風疹混合 [ミールピック]



MMR 生ワクチン 未承認 麻疹・風疹・おたふくかぜ混合 [Priorix]



✓チェックリスト

- 感染力が強く、成人で重症化しやすい(特に麻疹)
- 生涯に2回の接種が推奨される
- 麻疹・風疹は妊娠中の感染で流産や先天異常のリスク
- 予防接種歴・感染歴は記録の確認が必要(抗体検査も実施可能)

●**感染リスク** 麻疹は空気、風疹・おたふくかぜは咳やくしゃみの飛沫を介して感染する。アジアやアフリカに多いが、世界中で感染のリスクあり

●**対象者** 罹患歴がなく2回接種が終了していない1歳以上の方(免疫抑制者、妊婦等を除く)

●**有効期間** 原則、2回接種後の追加接種なし

●**接種方法** 1か月以上あけて2回

破傷風・百日咳・ジフテリア [トリピック]



破傷風 [破傷風トキソイド]



未承認 思春期成人用 破傷風・百日咳・ジフテリア混合 [Tdap]



✓チェックリスト

- 破傷風は発症すると集中治療が必要となる重症感染症
- 日本を含む全世界の土壤中に破傷風菌が存在
- 国内での破傷風患者の多くが高齢者(定期接種化は1968年)
- 百日咳は1歳未満の小児で重症化のリスクが高い

●**感染リスク** ケガ(非常に軽微なものを含む)と土への曝露、百日咳は飛沫を介した感染など

●**対象者** 発展途上国への長期滞在者。野外活動が多く、外傷を負いやすい渡航者。百日咳は小児との接触が多い、または1歳未満の小児に接触する者

●**有効期間** 10年以上(百日咳は5年程度)

●接種方法



ポリオ [イモバックスポリオ]

リスクの高い地域
(野生株流行地)
アフガニスタン・パキスタン



✓チェックリスト

- WHOが世界ポリオ根絶計画を実施中(中長期的には流行国・報告患者が減少)
- 循環型ワクチン株を含めて流行国に4週間以上滞在する方が出入国の際に接種証明書を求められる場合があり、最新の流行状況や出入国要件の確認が必要
- 国際基準的には3~4回以上の接種が推奨される
- 昭和50~52年生まれの方は獲得免疫が低い傾向があり、追加接種推奨

●**感染リスク** 患者からの飛沫感染、ウイルスが混入した飲食物等からの経口感染

●**対象者** ポリオおよびワクチン株感染の発生国に長期渡航する方

●**有効期間** 特になし

●弱毒生ワクチン2回接種後の追加としては1回追加(留学先等の条件により異なる)

●接種方法





ヒトパピローマウイルス(HPV) [シルガード9・ガーダシル(4価)] 等

推奨度



✓チェックリスト

- 子宮頸がん、膣がんの他、男性でも生じ得る中咽頭がん、肛門がんなどのがんや尖圭コンジローマ等の原因になる
- 小学6年生～高校1年生相当の女性は定期接種の対象
- 性経験があれば50%以上が生涯で一度は感染
- すでに感染したウイルスは排除出来ないため、年齢が進むと期待される効果は下がる

- 感染リスク** 性交渉
- 対象者** 9歳以上(2025年4月時点、シルガード9は男性では適応外)
- 有効期間** 追加接種の必要はなし
- 接種方法** [シルガード9] 15歳未満:2回、15歳以上:3回 [ガーダシル]3回



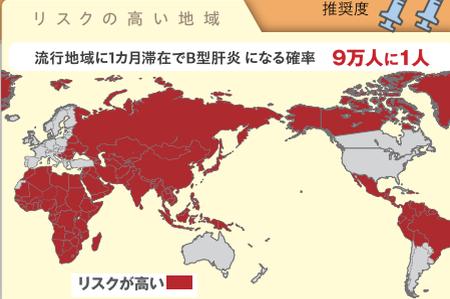
B型肝炎 [ヘプタバックスII、ビームゲン]



✓チェックリスト

- 持続感染により慢性肝炎、肝硬変、肝がんなどの原因となる
- 感染者の体液との接触等で感染する
- 日本を含むほとんどの国で小児に定期接種を実施
- 3回接種での抗体の獲得は約90%、20年以上の肝炎発症の予防効果となる

- 感染リスク** 性交渉、血液曝露(例:輸血、針刺し事故)、母子感染、濃厚接触(例:保育、コンタクトスポーツ)など
- 対象者** 流行地域への長期滞在者。職業上、血液に触れるリスクがある医療従事者など
- 有効期間** 原則、免疫獲得後の追加接種は不要



- 接種方法** ●接種後、抗体陰性の場合(5~10%)は、3回追加接種。それ以上の接種は一般に行わない。
- 初回 1回目
- 4週間後 2回目
- 6か月以上 3回目

海外渡航に伴う感染症のリスク

海外では、様々な原因で感染症にかかるリスクがあります。感染のリスクを正しく理解しておくことで、感染症を予防できたり、早期治療により重症化を防ぐことができます。

水・土

- 破傷風
- レプトスピラ症
- 住血吸虫症

飲食物

- 旅行者下痢症
- 腸・パラチフス
- A型・E型肝炎
- コレラ
- ポリオ
- ブルセラ症

節足動物

蚊

- デング熱
- チクングニア熱
- マラリア
- 黄熱
- 日本脳炎
- ジカウイルス感染症
- オロブーシェ熱
- ウエストナイル熱

ダニ/シラミ

- リケッチア症
- ライム病
- ダニ脳炎

動物

- 狂犬病
- 野兔病
- 高病原性鳥インフルエンザ
- Bウイルス感染症
- 中東呼吸器症候群

ヒト

性感染症

- HIV感染症
- B型肝炎
- 梅毒
- ヒトパピローマウイルス
- エムボックス

病気の人との接触

- インフルエンザ
- 麻疹
- 風疹
- 百日咳
- 髄膜炎菌
- COVID-19
- RSウイルス感染症
- 中東呼吸器症候群



生ワクチン 水痘・帯状疱疹 [水痘ワクチン]

推奨度



✓チェックリスト

- 感染力が強く、成人で重症化しやすい
- 過去の感染歴の信頼度が高い(臨床診断しやすい)
- 帯状疱疹が予防可能(50歳以上が対象)

●接種方法



- 感染リスク** 空気あるいは接触により感染する。熱帯地域と比べて温帯地域に多い
- 対象者** 罹患歴がなく2回接種が終了していない1~50歳の方(免疫抑制者、妊婦等を除く)、帯状疱疹を予防したい50歳以上の方
- 有効期間** 水痘予防では原則2回接種後の追加接種なし

帯状疱疹 [シングリックス]



推奨度



✓チェックリスト

- 帯状疱疹は、体内に潜む水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化して生じる
- 50歳以上で罹患率が高くなる(ピークは70歳代)
- 皮膚の疼痛と水疱形成が症状として出現し、痛みが慢性化することがある

●帯状疱疹に罹るリスクが高い者では1か月空ければ2回目の接種可能

●接種方法



- 感染リスク** 自分の体内に潜んでいるウイルスが再活性化するため、外部から感染するわけではない
- 対象者** 50歳以上、帯状疱疹に罹患するリスクが高い18歳以上の者 ※65歳以上、60歳以上65歳未満のHIVによる免疫異常がある者は定期接種対象
- 有効期間** 10年間以上

日本脳炎 [ジェービック] 等



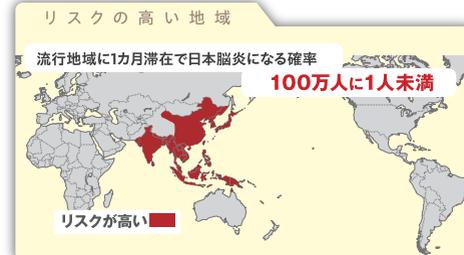
推奨度



✓チェックリスト

- 日本では1954年から予防接種の推奨あり
- 豚や野鳥を吸血した蚊の刺咬により感染
- 国内でも感染リスクあるが、患者報告は年間数例程度
- 発症者の約20%が死亡、生存者の約40%に後遺症

- 感染リスク** 近郊に豚舎などがある農村地区の滞在、温帯の夏季や熱帯の雨季などの蚊が多い季節
- 対象者** 東南アジア、南アジアの郊外、農村部への長期滞在者
- 有効期間** 3~4年以上(追加接種すべき間隔はデータ不十分)



●接種方法





呼吸器感染症

50歳以上の方で渡航中、渡航後に最も多い感染症は呼吸器の感染症です。

重篤な肺炎にかかり、搬送される方もいるので、下記の呼吸器感染症に対するワクチンを検討しましょう！
インフルエンザ、RSウイルス、COVID-19 のワクチンは
妊娠中期以降の妊婦にも接種が推奨されています。

肺炎球菌 [プレベナー(20価)・ニューモバックスNP(23価)]



✓チェックリスト

- 小児・成人の肺炎球菌による感染症の重症化を阻止できる
- 65歳以上あるいは特定の持病を有する60歳以上で定期接種対象
- 効果としてプレベナーの方が高いとされる

- 有効期間 高リスク者では、5年以上あけて再接種は可能(プレベナーの再接種はデータ不十分)
- 接種方法 添付文書に準ずる
※以前に何かしらの肺炎球菌ワクチンの接種歴がある場合、接種間隔に注意は必要

インフルエンザ [季節性インフルエンザワクチン]



✓チェックリスト

- 毎年世界各地で大なり小なりの流行がみられる
- 北半球では1~2月頃、南半球では7~8月頃が流行のピークだが、亜熱帯地域・熱帯地域では恒常的な発生がある
- 北半球と南半球ではワクチンはわずかに異なる
- 65歳以上あるいは特定の持病を有する60歳以上で定期接種対象

- 対象者 生後6カ月以上
- 接種方法 原則1シーズンに1回(12歳以下は2回接種)
※小児用の経鼻生ワクチンや高齢者用の高用量インフルエンザワクチンも国内で承認されています。

RSウイルス [アブリスボ] 等



✓チェックリスト

- 小児を中心として国内外で定期的に流行する
- 生後6カ月の乳児では重症化しやすい
- 妊婦にワクチン接種をすることが出生児の予防につながる
- 高齢者(特に慢性的な呼吸器感染症を有する者)において、急性の重症肺炎を起こす

- 対象者 妊娠24~36週の妊婦(28週以降が望ましい)、60歳以上
- 接種方法 1回

COVID-19 [コミナティ] 等



✓チェックリスト

- 流行自体は継続しており、海外で罹患することは少ない
- 60歳以上では依然として重症化率は高い
- 65歳以上あるいは特定の持病を有する60歳以上で定期接種対象

- 対象者 生後6カ月以上
※当院の取り扱いについては必要時にお問い合わせください
- 接種方法 前回のCOVID-19ワクチン接種から3カ月以上経過していれば追加可能。接種歴がない場合は4週間以上あけて2回

渡航中、帰国後、渡航後に体調を崩したら



渡航中

- ▶ 発熱を伴わない軽い感冒症状であれば経過をみてもよい
- ▶ 下痢のみであれば、自然治癒が第一選択の治療方法なので、十分な水分と糖分と塩分を摂取して経過をみてもよい。1週間を超えて改善しない場合

- ▶ や便に血が混じる場合には医療機関受診を考えたほうがいい
- ▶ 38度を超える発熱がある場合には医療機関受診を考慮。(特にマラリア流行地に1カ月以内に滞在していた場合)

マラリア情報

- FORTH (厚生労働省 検疫所) https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_malaria.html
- Malaria atlas project (英語) <https://malariaatlas.org>
- CDC Travel Health <https://wwwnc.cdc.gov/travel/yellowbook/2024/infections-diseases/malaria>

- ▶ 動物咬傷は、なるべく早めに現地の医療機関へ受診をしてください
- ▶ 医療機関探索する際は、加入した旅行保険会社の案内や世界の医療事情などを調べてください
- ▶ 現地で治療が不可能等、帰国後の治療継続が必要な場合には緊急移送等に関して在外公館領事館へご相談ください
- ▶ 受診時に診療明細や英文紹介状をもらって帰りましょう

世界の医療事情

- 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>

国立国際医療センターへの搬送を検討される場合の窓口

- ※ 連絡に際して、ご本人やご家族ではなく、搬送のコーディネートを行う保険会社等からの連絡をお願いします。
- 国際診療部 support@jihs.go.jp

帰国時、渡航後

- ▶ 帰国時であれば検疫所の医師に相談も可能
- ▶ 渡航後にも38℃を超える発熱がある場合には医療機関受診を考慮しましょう。特にマラリア流行地(サブサハラアフリカ等)に1カ月以内に滞在していた場合には急いで受診をしましょう
- ▶ 感染症には、潜伏期間(感染してから発症するまでの期間)が数日から1か月以上と長いものもありますので、帰国から1か月以内の発熱は医療機関への相談を検討してください
- ▶ 動物咬傷を受け、曝露後予防を継続しないし開始を検討したいときには、早めに医療機関の受診を検討してください
- ▶ 帰国後の体調不良や狂犬病曝露後予防について、当院の総合感染症科外来で診療が可能です。下記の「帰国後の体調不良」等を参照いただき、受診をご検討ください。時間外は救急外来での対応となりますが、適宜、専門医への相談が可能な体制を取っております
- ▶ 遠方など受診が難しい場合、お近くの医療機関や狂犬病曝露後予防については、FORTHのホームページでも検索ができます
- ▶ 発熱を伴わない下痢症は渡航中と同様、自然改善が期待されます。受診されたい場合にはまずお近くの病院をお探しください

帰国後の体調不良

- 国立国際医療センター 総合感染症科 <https://www.hosp.jihs.go.jp/s041/index.html>
○平日 8:30-17:00 TEL:03-6228-0738(直通) ○時間外(土日祝日含む) TEL: 03-3202-7181(代表)
紹介状がない場合に別途、選定療養費が発生することがあります。ただし、当院トラベルクリニック受診後等で上記が発生しない場合もありますので、お問い合わせの際にご確認ください。

帰国後診療リスト

- 日本渡航医学会 <https://plaza.umin.ac.jp/jstah/03posttravel/index.htm>

予防接種実施機関

- 厚生労働省検疫所(FORTH) <https://www.forth.go.jp/moreinfo/vaccination.html>